

全国1位の倉敷市立児島小学校を表彰

第44回 ショウワノート ベルマークキャンペーン



贈呈された本を前に記念撮影。右端が片岸茂ショウワノート社長、その隣が道久理恵・元児島小PTAベルマーク推進部部長

岡山県倉敷市の市立児島小学校（樋口治校長、児童767人）で6月13日、協賛会社ショウワノート（ベルマーク番号53）によるベルマークキャンペーン全国1位表彰式がありました。同社の片岸茂社長から、PTAベルマーク推進部部長の片山良美さんに表彰状が、また児童代表の6年生、井上大虎（いのうえ・たいが）くんには記念品が贈られました。

今回が44回目というこのキャンペーンは、「ジャポニカ学習帳」など同社のノートについているベルマークを、1年間でどれだけ集められるかを競います。児島小学校は2017年、1万4418点の

ベルマークを収集。今回は他に1万台に乗せた学校はなく、児島小は2位に5000点以上の差をつけての全国1位となりました。

片岸社長はあいさつで、ジャポニカ学習帳の表紙を飾る花の写真は、そのために写真家が世界各地を尋ねて撮影していることを説明。「世界にはこんなものもあるんだ、とみんなに発見してもらうために作っています。来年もぜひ1位をめざしましょう」と話すと、児童たちは大きな声で「はい!」とこたえました。

記念品は、新作絵本セットや日本の歴史全23巻などの書籍です。もう一人

の児童代表、6年生の河田旭乃佳（かわた・このか）さんは、「たくさんの本をありがとうございました。みんなで読めます。ベルマークを集めることで、クラスや学校がまとまりました」とお礼を述べていました。

ぶっちぎりの1位には秘密がありました。昨年度までPTAベルマーク推進部の部長を5年間務めた道久理恵さんによると、昨年度は強化活動としてショウワノートのキャンペーンをとりあげ、各教室にマークを貼る表を掲示し、多く集めた優秀クラスの表彰も始めました。これが児童の関心を大いに集め、「家庭



（写真上）片岸茂ショウワノート社長から片山良美・児島小PTAベルマーク推進部部長に表彰状が手渡された
（写真下）児童代表でありさつする6年生の河田旭乃佳さん

で眠っていた古いノートのマークまで掘り起こす効果となった」そうです。

式後の懇談では、180度水平に開くショウワノートの新製品が話題になりました。数年前にツイッターで「おじいちゃんのノート」として評判になった東京・北区の中村印刷所とコラボした製品。この技術が色々な商品にも応用されたら……と夢は広がり、話が弾みました。

ショウワノートでは現在、第45回キャンペーンを実施中です。今年12月までにベルマーク財団で検収を終えた点数を競います。結果はベルマーク新聞及び財団HPで発表します。

ナックがマーク23万点余を寄贈

毎年、社内でベルマークを集め、財団に寄贈してくれている株式会社ナック（本社・東京都新宿区）が、今年も23万点余りのマークを届けてくれました。

同社ビジネスサポート本部部長・特命担当の小岸良昭さんと、同経理部財務室IR・広報室の村中崇さんが6月14日、段ボール二箱に満々と入ったベルマークを財団に手渡しました。災害被災校やへき地校の支援などに役立てられます。

ナックは「暮らしのお役立ち企業」を掲げ、宅配水「クリクラ」や、掃除用具などダスキンのレンタル商品、住

宅などを手がけています。従業員は約2100人。ベルマークの寄贈は前社長（現会長）の提案で2009年に始まり、今回で10年連続。社内にCSR委員会を設置し、ベルマークのほかにも古本の収集や地域の清掃活動など、様々な活動に社員総出で取り組み、「暮らし」とともに「社会」にも役に立つ企業を目指しているそうです。

社内の各部門で一年間、競うように集めたベルマークは、2017年度は計23万6599点にものぼりました。それでも小岸さんは「前年度は24万点だったので、少し減ってしまって……」と謙虚に話していました。



ナックの小岸良昭さん(左)と村中崇さん

マーク寄贈、老人ホーム入居者も協力

あいおいニッセイ同和損保浜松支店が浜松市の福祉施設に

協賛会社のあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（ベルマーク番号92）が浜松支店で昨年度回収した2万1052点のベルマークを、浜松市の社会福祉法人小羊学園が運営する障害児・者施設の三方原スクエアに寄贈しました。

同社浜松支店は昨年暮れに浜松市と包括連携協定を結び、その一環として2018年1月から市の図書館でベルマーク収集を始めました。集まったマークは、社会

福祉法人聖隷福祉事業団の協力を得て、老人ホーム「浜名湖エデンの園」で3月にボランティア参加の入居者と支援スタッフが仕分け作業をしました。

6月15日に開かれた贈呈式では、浜松支店の戸高洋司支店長、聖隷福祉事業団の井上英樹執行委員財務部長らが出席。三方原スクエアの出水巖生施設長に目録を手渡しました。同社は今後も地域社会の一員として社会貢献活動をしていきたいとしています。



老人ホームでの仕分け会には入居者もボランティア参加した